

R7教職員自己評価集計

NO	評価項目	回答数	R7	判定	R6	4の回答	3の回答	2の回答	1の回答	肯定的回答%	否定的回答%
1	学校教育目標の達成に向け、学校経営方針に基づいた学校運営がなされている	25	3.6	A	3.6	15	10	0	0	100%	0%
2	教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係のもと協動的に教育活動が行われている	25	3.2	A	3.4	7	17	1	0	96%	4%
3	施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理（整備・保全）している	25	3.5	A	3.6	13	11	1	0	96%	4%
4	事故や災害等に対し、適切な対応マニュアルが整備され、危機管理に努めている	25	3.5	A	3.5	12	13	0	0	100%	0%
5	生徒の個人情報について、適切に管理・保護されている	25	3.5	A	3.4	12	13	0	0	100%	0%
6	新型コロナウイルス等について、正しい知識で感染防止対策に取り組むよう努めている	25	3.8	A	3.6	19	6	0	0	100%	0%
7	ライフ・ワーク・バランスを意識した業務改善に取り組んでいる	24	3.1	A	2.9	6	15	3	0	88%	13%
8	新学習指導要領に基づき「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教育活動の実践を目指している	25	3.4	A	3.5	10	15	0	0	100%	0%
9	校内研究の主題である、学び合いを通じた確かな学力の向上に向け、授業改善に取り組んでいる	25	3.3	A	3.4	9	14	2	0	92%	8%
10	道徳の授業の充実にも努めるとともに、他者を思いやる心や規範意識を育てる教育活動を日常的に実施している	25	3.4	A	3.4	10	15	0	0	100%	0%
11	GIGAスクール構想の実現に向け、1人1台端末の積極的な利用に努めている	25	3.2	A	3.3	6	17	2	0	92%	8%
12	生徒の問題行動に対し、報告・連絡・相談の体制が確立され、共通理解の上で組織的に対応している	25	3.6	A	3.3	14	11	0	0	100%	0%
13	いじめの早期発見に努めるとともに、早期解決に向けて組織的に取り組んでいる	25	3.6	A	3.7	16	9	0	0	100%	0%
14	保護者との対応や関係諸機関（SC・SSW・SS等）との連携が、スムーズに行われている	25	3.6	A	3.4	16	9	0	0	100%	0%
15	養護教諭やスクールカウンセラーなどとの連携が、教育相談に生かされている	25	3.7	A	3.7	18	7	0	0	100%	0%
16	「師弟同行」を実践するとともに、教師が生徒の模範や理解者・支援者となりえている	25	3.4	A	3.4	10	14	1	0	96%	4%
17	不登校傾向のある生徒の支援に配慮し、必要に応じて関係機関と連携を図りながら対応している	25	3.5	A	3.5	13	11	1	0	96%	4%
18	特別支援教育について共通理解が図られ、保護者や生徒の抱える諸問題に真摯に対応し、個別の支援計画に基づいて手立てが進められている	25	3.4	A	3.3	11	13	1	0	96%	4%
19	学校行事や生徒会活動等の取り組みが、生徒の自主性や協調性を養い学校生活の充実につながっている	25	3.4	A	3.3	12	12	1	0	96%	4%
20	部活動は、主体的・意欲的な取り組みを通じて達成感を得られるよう、運営の工夫がなされている	25	3.5	A	3.4	12	13	0	0	100%	0%
21	合唱を推進する活動が、計画的・効果的に行われ、生徒の心の教育や集団づくりに役立っている	25	3.6	A	3.6	15	9	1	0	96%	4%
22	朝・帰りのあいさつ運動などを通して、あいさつができる生徒の育成に努めている	25	3.4	A	3.3	11	12	2	0	92%	8%
23	生徒の学習や生活の様子を保護者に知らせ、保護者との相互理解を図り、連携している	25	3.6	A	3.4	16	9	0	0	100%	0%
24	各種たよりやホームページ・学校連絡メールを活用し、保護者や地域への情報提供に努めている	25	3.7	A	3.5	17	8	0	0	100%	0%
25	目指す児童・生徒像（ふるさと、人、学びを大切にす甲西の子）を意識して教育活動の推進に努めている	25	3.2	A	3.4	7	17	1	0	96%	4%
26	義務教育9年間を見通した教育課程を編成し、実践につなげている	25	3.2	A	3.3	7	17	1	0	96%	4%
27	小中で連携した研究の推進や交流活動を展開することにより、中1ギャップの解消につなげている	25	3.4	A	3.3	11	13	1	0	96%	4%

4 教職員自己評価の考察

(1) 教職員自己評価集計結果の概略

教職員自己評価については、25名(非常勤・市職員含む/職務内容により回答不能な項目は未回答)より回答を得た。評価対象である全27項目が、回答平均3.0以上のA判定であり、ほとんどの項目について肯定的な回答が85%以上の結果となった。内訳についてみると、昨年度比で0.1上回った項目が5、0.2上回った項目が4、0.3上回った項目が2、反対に0.1下回った項目が3、0.2下回った項目が3、残りの10項目は同数値であった。数値的には昨年比で低下した項目はあるものの、全体的な結果から、引き続き本校の教職員が、学校教育目標並びに学校経営方針を概ね意識して教育活動(職務)の遂行に努めていることが分析できる。

(2) 各分野の考察

I 学校経営・組織・安全管理

7「ライフ・ワーク・バランスと業務改善」の項目は、3.1と昨年比で0.3ポイント上昇した。肯定的回答率も88%と昨年度を0.9%上回っている。まだまだ改善する必要は大いにあるが、職員の意識も少しずつ高くなってきたと分析することはできる。「4」の回答者が、2名から6名に増え、「2」と回答した職員が、5名から3名に減っている。

働き方改革や多忙化改善について広く認知され、また指摘を受ける状況から、勤務時間に対する意識は、職員間で高まってきているものの、まだまだ業務の効率化や精選などが必要である。部活動の地域移行に係る取り組みも道半ばの状況にある。職場内だけの改善には限界や困難さも感じられるが、「より柔軟な勤務体制の継続と進展」「協働的な取り組みと行事や業務の精選」等を図り、少しでも「多忙感」の解消につなげていきたい。

※4月から12月までの1ヵ月あたりの勤務時間外在校時間の平均80時間超は1名であった(昨年度比1名減)。ただ、70時間超が1名、65時間超も3名いる。

【多忙化解消に向けた具体的取り組み(例)】

- 計画的かつ柔軟な年休取得と勤務時間管理(定時退勤の勧めなど)
- チームとして協働的に取り組むことによる個人的な負担感の軽減
→学校行事(学園祭・強歩大会・生徒会選挙・季節部担当等)の具体的な分担の可視化
- 可能な限りのペーパーレス化※甲西中HPや安心メール・グーグルフォーム等の活用
- 仕事の優先順位を意識した業務改善(各個人) など

II 教育課程・学習指導

本分野は、4項目中2項目が肯定的回答率100%、2項目が92%であった。

8「新学習指導要領に基づき「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教育活動の実践を目指している」の項目については、3.4(昨年比-0.1)となっている。これも誤差的なものを受け止められるかもしれないが、今年度も、芸術鑑賞教室・合唱指導・学園祭・道徳公開等、様々な場面で地域や保護者の力を借りながら教育活動ができていくことへの前向きな考えの表れと捉えることができる。また、今年度から発足したCSの更なる発展に向けて、地域の活動への参加や地域人材の活用を進めていきたい。

9「学び合いを通じた確かな学力の向上に向け授業改善」の項目については、肯定的といつつも、3.3(昨年比-0.1,一昨年比-0.3)となった。多くの職員がICTを用いた授業改善や教材研究に励んでいるものの、その授業実践はまだ道半ばと言わざるを得ない。対面授業によるICTの「より効果的な」授業改善(発言や記述などのアウトプットとICTの調和のとれた授業)が今後、更に必要であろう。

11「GIGAスクール構想の実現に向け、1人1台端末の積極的な利用に努めている」の項目についても、上記9と同様である。

III 生徒指導・教育相談・特別支援教育

12「生徒の問題行動に対し、報告・連絡・相談の体制が確立され、共通理解の上で組織的に対応している」の項目は、3.6(昨年比+0.3)となった。今年度の各学年の対応の様子を見れば領ける数値であると考ええる。「報告・連絡・相談の円滑な学年間の共有」など、今ある課題を、前向きに改善していこうという意識が昨年度からもだいぶ高くなっている。

14「保護者との対応や関係諸機関（SC・SSW・SS等）との連携が、スムーズに行われている」の項目についても、3.6(昨年比+0.2)となった。上記 12でも言及したが、「必要に応じて外部機関に協力を要請したり、こちらから情報を共有したりすること」が学年間でスムーズにできていた印象を受ける。また、特に保護者への対応については、各学年とも「誠意とスピード」をもって対応することができ、多くの保護者からも信頼されていると感じる。

18「特別支援教育について共通理解が図られ、保護者や生徒の抱える諸問題に真摯に対応し、個別の支援計画に基づいて手立てが進められている」の項目は、3.4(昨年比+0.1)となっている。本校では、特別支援学級担任及び交流学級担任が常に連携し、学年及び学校全体で「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に基づいた支援や指導がなされている。特別支援級の個別支援計画等に関する職員間の情報共有等をさらに進めていきたい。

生徒指導については、問題や困り感を抱えた生徒に対応するにあたり、家庭要因を抱えているケースが増えてきている。今年度も定期的に計画した校内支援委員会により、職員全体での情報共有に努めて支援策を検討するとともに、教育相談担当をコーディネーターとして、SCや、市の「子ども家庭センター」及び児童相談所等と連携してきた。今後も関係機関はもとよりSSWとも連携を密にした対応が必要である。

IV 特別活動

肯定的回答率は1項目で100%、2項目で96%、1項目で92%であった。

19「学校行事や生徒会活動等の取り組みが、生徒の自主性や協調性を養い学校生活の充実につながっている」の項目については3.4(昨年度比+0.1)で、肯定的回答率96%であったものの課題も指摘されている。「生徒主体の活動を仕組むには、活動の趣旨や目的、方向性についてあらかじめ教員が思い描き実現に向けて指針を示すべき」という記述のように、より主体的な生徒会活動を仕組んでいくことが来年度に向けての課題である。

22「あいさつができる生徒の育成」の項目については、3.4(昨年比+0.1)ではあったが、肯定的回答率については92%(昨年度と同数値)となっている。今年度も、小中連携で中学生が各小学校に出向いてあいさつ運動に取り組んだり、青少年育成南アルプス市民会議主催のあいさつ運動に参加したりすることはできているが、生徒指導主事と生徒会本部の連携のもと、各学年・部活動・委員会レベルで、「現状維持」にならず、あいさつの日常的な取組を継続していく必要がある。

V 保護者・地域連携

肯定的回答率は2項目ともに100%あった。

23「保護者との相互理解と連携」は、昨年を0.2ポイント上回る3.6となった。14でも言及しているが、保護者への対応について、今年度も本校職員の「誠実さ」を身にしみて感ずることができた。これまでの対応状況を振り返るなかで、保護者・地域との良好な関係を保つことができていると実感している。

また、昨年11月8日に行われた「甲西こども祭り」では、本校生徒25名がボランティアとして参加させていただいた。この日の本校生徒の活動ぶりが好評で、多くの関係者や地域の方からお褒めの言葉をいただいた。この取組も、CS活動の一環として進めていきたい。

VI 小中連携

3項目の肯定的回答率は、25・26・27ともに96%であり、数値では、253.2(昨年比-0.2)・263.2(昨年比-0.1)・273.4(昨年比+0.1)となった。小中連携の活動が進んでいく中で、新たな課題が見えてきたことを示す結果になったと考えられる。特に、25・26それぞれで、-0.1ポイント下がったことは、来年度に向けての好材料であると捉えるべきではないかと考える。

今年度の活動は結果的には、確かに昨年度から改善されたように見えるが、全職員が共通理解し可視化し、児童生徒による主体的な取組になったかという点、まだまだ道半ばと言わざるを得ない。CS2年目に向けて、自校のみでの活動ではなく「小中連携を可視化」させながら、甲西地区4校の職員同士の共通理解・情報共有と連携が、極めて重要である。